

長岡工業高等専門学校		開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	水理学ⅡA	
科目基礎情報						
科目番号	0181		科目区分	専門/必履修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境都市工学科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	「水理学」コロナ社					
担当教員	衛藤 俊彦					
到達目標						
この科目は長岡高専の教育目標の(D)と主体的に関わる。この科目の到達目標と、各到達目標と長岡高専の学習。教育到達目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習・教育目標との関連の順で次に示す。 ①層流・乱流とレイノルズ数について理解する。(20%)(d1) ②壁面の抵抗と摩擦損失水頭について理解する。(40%)(d1) ③種々の管水路流れの計算法を修得する。(40%)(d1)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	層流・乱流とレイノルズ数について理解する。		層流・乱流とレイノルズ数について概ね理解する。		左記に達していない。	
評価項目2	壁面の抵抗と摩擦損失水頭について理解する。		壁面の抵抗と摩擦損失水頭について概ね理解する。		左記に達していない。	
評価項目3	種々の管水路流れの計算法を修得する。		種々の管水路流れの計算法を概ね修得する。		左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	管水路流れにおいて、摩擦を伴う流れの計算ができるようにする。さらにこれまでに述べた流れの基礎理論および流れの抵抗法則を基本として、定常的な管水路流れについての工学的な問題を取り扱う。そして管水路によって実際に水の輸送が行えるような計算手法について述べる。 ○関連する科目: 水理学Ⅰ					
授業の進め方・方法	適宜、授業内容に沿った演習問題を行う。					
注意点	水理学Ⅰ及び微分積分・物理(特に力学)等が基礎知識として必要である。復習をしておくこと。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	層流・乱流とレイノルズ数および壁面の抵抗	層流と乱流について、説明できる。		
		2週	ハーゲン・ポワジューユの法則	ハーゲン・ポワジューユの法則について説明できる。		
		3週	円管内の乱流と流速分布	流体摩擦(レイノルズ応力、混合距離)を説明できる。		
		4週	損失水頭を考慮したベルヌーイの定理	損失水頭を考慮したベルヌーイの定理について説明できる。		
		5週	摩擦損失水頭	摩擦損失水頭について説明できる。		
		6週	図化及び演習	これまでの学習内容についての演習問題を解くことができる。		
		7週	前期中間試験			
		8週	平均流速公式と抵抗係数	平均流速公式と抵抗係数について説明できる。		
	2ndQ	9週	平均流速・流量・摩擦損失水頭の計算	平均流速・流量・摩擦損失水頭の計算ができる。		
		10週	管水路における各種損失水頭	管水路の摩擦以外の損失係数について、説明できる。		
		11週	単線管水路	各種の管路の流れが計算できる。		
		12週	サイフォン	各種の管路の流れが計算できる。		
		13週	水車・ポンプとその応用計算	各種の管路の流れが計算できる。		
		14週	総合演習	これまでの学習内容についての演習問題を解くことができる。		
		15週	前期期末試験			
		16週	試験解説と発展授業	試験の確認及びこれまでの学習内容について理解する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野	水理	層流と乱流について、説明できる。	4	前1
				流体摩擦(レイノルズ応力、混合距離)を説明できる。	4	前3
				管水路の摩擦以外の損失係数について、説明できる。	4	前10
				各種の管路の流れが計算できる。	4	前11,前12,前13
評価割合						
		前期中間試験	前期期末試験	合計		
総合評価割合		40	60	100		
基礎的能力		0	0	0		
専門的能力		40	60	100		
分野横断的能力		0	0	0		